

## 長野県木曾青峰高等学校 令和3年度第1回学校評議員会 記録

**日時** 令和3年7月16日（金）午後3時00分から午後4時30分

**場所** 木曾青峰高等学校同窓会館

**出席者** 学校評議員 同窓会長・同窓副会長・PTA会長・定時制教育振興会長  
信州木曾看護専門学校副学校長・木曾福島地区区長会長  
学校職員 校長・全日制教頭・定時制教頭・全日制教務主任・定時制教務主任  
進路指導主事・生徒指導主事・1学年主任・2学年主任  
理科主任・森林環境科主任・インテリア科主任

### 1 開会

### 2 学校長挨拶

### 3 学校からの報告

### 4 学校評議員からの質問・意見・要望等

（評議員） 各学科が定員割れをしている一方、松本地区へ流出が見られる。今後の取り組みの方針について教えていただきたい。

■木曾郡の中学生が200人未満であると、5クラスで足りることになる。対策としてPRの仕方が重要と考えている。郡内での生徒数が限られる以上、松本塩尻などの中学校へ訪問するなど郡外の中学生へのPRも重要と考えている。

■森林環境科とインテリア科は、郡外の中学校への訪問を実施している。

（評議員） 職業科の専門の職員の配置状況について教えていただきたい。特に森林環境科は脱炭素社会に向けて魅力ある学科であってほしいと考えている。

■採用の問題もあるためピンポイントで専門分野の職員の確保は困難である。しかし教科の専門の先生であるので幅広くやっていると考えている。

（評議員） スクールマガジンの配布範囲を教えてください。

（評議員） スクールマガジンも小学校へ配布し、壁へ貼っていただくなど心へ留めるようにしていくのも大切なのではないかと。

■今年度より木曾郡の中学生全員に配布している。

（評議員） 青峰高校には、生徒のきめ細かい指導を行っていただき感謝している。信州木曾看護専門学校では開校以来、木曾青峰高等学校の生徒が18名入学し、退学者は皆無でうち14名は木曾病院へ就職している。そのような流れを継続していただきたい。

（評議員） 生徒数が減っているが、2割は郡外へ流出している。どうにか郡内に留めるようにしていただきたい。

（評議員） アンケート結果から1年生の学習時間が少ないように感じるが、進路の実績は良好である。どのような指導をおこなっているのか。

（評議員） 家庭学習は、義務教育との連携も含め考えていくことも必要なのではないかと。

■アンケートは4月調査のため、まだ生徒が学習に向かう姿勢が十分でない時期のデータである。また木曾地域の生徒たちは素直に教員の指導を受け入れることも要因であろうと考えられる。

（評議員） ワクチン接種の有無と、修学旅行の影響についてどのように考えているか。

■ワクチン接種は個人の判断であるが、推奨していく。修学旅行については昨年度、県よりキャンセル料を支払ってもらった。今年度の対応については校長会でも情報交換している。

(評議員) 昨年度、ケーブルテレビで生徒の発表が放映したが、全戸配布の冊子で学校を紹介したり新しい役場にインテリア科の作品を展示できるよう協力させていただきたい。

■いろいろな形で地域に支えていただいている。感謝申し上げます。

(評議員) 授業参観もさせていただいたが、元気に挨拶をしてくれた。先生方にも感謝申し上げたい。

(評議員) 進路指導においても県内の教員を目指すような指導をして、土壌を作っていくことも大切ではないか。

■中学校への生徒による学習指導を一昨年度まで実施していた。今年度は復活させる方向で準備している。その他の中学校についても検討したい。

## 5 その他

## 6 閉会